音楽学部　器楽科弦楽専攻　　カリキュラム・ガイド

区分		科　　目	1年次		2年次		3年次		4年次		DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	DP ⑤
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
専門科目	必修科目	専門実技(弦楽)Ⅰ	■	■							●		●	●	
		専門実技(弦楽)Ⅱ			■	■					●		●	●	
		専門実技(弦楽)Ⅲ					■	■			●		●	●	
		専門実技(弦楽)Ⅳ							■	■	●		●	●	
		学内演奏					■	■			●		●	●	
		卒業演奏							■	■	●		●	●	
		副科ピアノⅠ	■	■							●		●	●	
		西洋音楽史	■	■	■	■						●			
		和声初級／和声A	■	■							●				
		和声中級／和声B			■	■					●				
		弦楽合奏	■	■							●		●	●	
		オーケストラ			■	■	■	■	■	■	●		●	●	
		チェンバーオーケストラ			■	■	■	■	■	■	●		●	●	
		室内楽Ⅰ	■	■							●		●	●	
		ソルフェージュA	■	■	■	■					●			●	
	選択科目	副科ピアノⅡ			■	■	■	■	■	■	●		●	●	
		副科実技(ピアノ以外)			■	■	■	■	■	■	●		●	●	
		ソルフェージュB					■	■	■	■	●			●	
		和声上級					■	■	■	■	●				
		室内楽Ⅱ			■	■	■	■	■	■	●		●	●	
		室内楽Ⅲ					■	■	■	■	●		●	●	
		室内楽Ⅳ							■	■	●		●	●	
		室内楽(Va 持ち替え)			■	■	■	■	■	■	●		●	●	
		吹奏楽			■	■	■	■	■	■	●		●	●	
		管打合奏	■	■							●		●	●	
共通科目		一般教養科目	■	■	■	■	■	■	■	■		●			
		専門基礎科目	■	■	■	■	■	■	■	■		●			
		外国語科目	■	■	■	■	■	■	■	■					●

弦楽科の学生は「高い専門性と豊かな人間性を有した芸術家、芸術分野の教育者・研究者及び芸術に携わるすべての実践者を養成する」という東京藝術大学の使命のもと、以下のような実践的な授業を受講することができます。

実技科目
(1)個人レッスンを中心とした弦楽器奏法の研究と演奏解釈
専攻楽器の個人レッスンでは、それぞれの学生の資質や目標に合わせた授業が行われます。音楽家として、多彩で豊かな表現を可能にし、高いクオリティの演奏を行うための演奏技術の向上をはかり、音から何を呼び起こすかという想像力の糧として、音楽作品の様式感や時代背景、構成や和声感等を学びます。また、自らの技術の向上のため、または、それを次世代に伝えるための「メソード」の研究を行うこともあります。試演会等や、学年末試験、公開の実技試験、学内演奏会などを通じて、「演奏」の実践を積みます。

(2)オーケストラ、室内楽などのアンサンブル授業
音によるコミニュケーションという観点から、アンサンブルの授業を重要なものとして位置付けています。弦楽合奏、オーケストラ、三重奏以上の室内楽の授業を履修することで、さまざまな形態のアンサンブルに対応する技術とコミュニケーション能力を身につけます。また、一つの楽曲を共に演奏し作り上げるとき、ひとりでは実現できない表現を体得することができます。

カリキュラム
毎週一コマの個人レッスンに加え、1年次には、弦楽合奏と室内楽Ⅰのクラス授業が必修となっています。2年次以降はオーケストラかチェンバーオーケストラが必修で、室内楽のグループ単位での授業が履修できます。学習の成果発表の場として、各教員のクラス単位での試演会があり、担当教員やクラスの学生同士での意見交換も行われます(ディプロマポリシー①③④)。
後期には、定期演奏試験が行われますが、1年次は「福島賞」奨学金のためのオーディションを兼ねています。3年次は学内の栄誉賞である「安宅賞」、また藝大フィルハーモニア管弦楽団と共演する「モーニングコンサート」出演のオーディションを兼ねています。4年次の「卒業試験」は奏楽堂で行われ、4年間の勉強の成果を発表する場となっています。また各種の新人演奏会出演のオーディションも兼ねています。また3年次後期には「学内演奏会」が奏楽堂で行われます。(ディプロマポリシー①③④)
そのほか音楽家としての基礎を築く科目として、和声・音楽史等の基盤的科目(ディプロマポリシー①)、ソルフェージュ(ディプロマポリシー①④)、国際的なコミュニケーションや留学、文献研究等に必要な外国語(ディプロマポリシー⑤)や、専門基礎科目、教養科目を学びます(ディプロマポリシー②)。最も頻繁に共演する楽器であり、音楽を包括的に理解することに役立つピアノは副科として必修で、その他のいくつかの楽器も副科として履修することができます(ディプロマポリシー①③④)。また内外からの講師を招いての「特別講座」や、特別招聘教授のマスタークラス等行われることがあります。

大学院音楽研究科　器楽専攻（弦楽）　カリキュラム・ガイド

大学院では、学部で培った演奏技術や音楽表現をさらに高度なものに発展させ、プロフェッショナルな音楽家としての自立を目指します。また学部に引き続き、個人レッスンに加えて、アンサンブル教育も重要視され、室内楽、チェンバーオーケストラ、さらにオーケストラ実習として藝大フィルハーモニアの演奏会出演も単位として認められています。

修士課程では 2 年次前期までに数名の教員と、学生・一般の聴衆を前に演奏する「修士リサイタル」を行うことが義務付けられています。また、その年度の担当教員が開設する、幅広いテーマについて研究する「特殊研究」も必修です。その他、幅広い視野を持ち、関連知識を深めるために、選択科目として他専攻の授業科目、学部開設科目や、原典特殊講義、音楽研究基礎、音楽リサーチ法を履修出来ます。

弦楽専攻では修士課程修了時に学位取得の要件として 2 つの選択肢があります。修士論文を書いて演奏審査を受ける場合と、演奏審査のみの場合です。前者では自らが定めた修士課程での研究テーマについて論文を表し、それと密接な関係をもったプログラムによる演奏を行います。また後者の場合は、その研究テーマを主に演奏によって表現し、研究報告書を提出します。